



## 離島フェア2025 久米島の魅力を発信

離島フェア2025が11月21日～23日の3日間、セルラーパーク那覇で開催されました。

天気に恵まれた3連休で、期間中の来場者は137,982人と多くの離島ファンでにぎわいました。久米島ブース(10社)も大盛況で食堂ブース(漁協・DMO)では連日早期完売となるなど久米島の特産品やグルメの魅力が来場者に広く伝わりました。

芸能ブースでは、学生グループ「久米島ディーバ」が島外初出演を果たし、会場を大いに盛り上げました。

また、韓国鉄板料理「久ー韓」の「アーサ入りもずくキムチ」が離島フェア2025の優良特産品【優秀賞】を受賞しました。初出展ながら島の食材を生かした商品が高く評価されました。離島フェアでの販売では、その他全ての商品も完売するなど大きな反響を呼びました。同店は現在、球美中学校前に店舗を構え、特製キムチのほかお弁当やオードブル等も提供しています。この機会に受賞商品のご賞味はいかがでしょうか。



## 久米島の出身者42人親交深める 那覇で三島郷友会

久米島町の西銘、上江洲、久間地の3集落出身で、本島に住む人たちでつくる同町三島郷友会(内間仁春会長)は10月26日、那覇市内のホテルで総会を開き、42人が友人や親戚との親交を深めた。

同郷友会は西銘の郷友会が母体。会員が減るなどして活動を休んでいた他の2集落の出身者らと2016年から一緒に活動している。

今回は町出身で、ていーだ観光取締役の崎原真弓さんが「戦後80年 命どう宝」と題して講演した。島出身で、米軍に艦砲射撃を思いとどまらせて住民の命を救ったが、日本軍にスパイ扱いされて刺殺された仲村渠明勇さんの戦争体験などについて語られた。

同会の吉濱秀彦事務局長が「観光振興を通じて交流人口を増やし、町民生活全般の発展につながるようしばらくは島に腰を据えて微力を尽くす」との会長あいさつを代読した。



沖縄タイムス11月11日(火)17面掲載 提供:三島郷友会 吉濱秀彦事務局長